



(電子版)

info@jikosoren.jp

2018年 第16号 2018年8月6日

発行：自交総連本部

〒110-0003 東京都台東区根岸2-18-2-201
tel. 03-3875-8071 fax. 03-3874-4997

ライドシェア合法化阻止で協力・共同 日本共産党・笠井、山添議員らと懇談

自交総連は8月2日、日本共産党の笠井亮衆院議員、山添拓参院議員らと自交総連本部で懇談し、白タク合法化阻止のために、今後も共同をすすめていくことを確認しました。

日本共産党からは、岩淵友参院議員秘書、辰巳孝太郎参院議員秘書らも参加し、自交総連からは、高城委員長、菊池書記長、東京・川崎書記長、舞弓臨時オルグが参加しました。

懇談では、笠井議員らから、通常国会での生産性向上特措法審議などを通じ、規制のサンドボックス制度がライドシェアの実証実験に使われる危険性やJIS認証制度がライドシェアにお墨付きを与えることになりかねない問題などを追及したことの報告があり、自交総連から、ソフトバンクや楽天などライドシェア解禁勢力の動き、タクシー事業者との配車アプリでの提携の問題、ジャスタビ、クルーなど白タク行為に経産省がお墨付きを与えて事実上後押ししていること、地方での住民の移動手段の確保が重要になっていることなどを報告しました。

規制のサンドボックス問題等の論戦は、他労組や経営者からも注目され反響が大きかったことが話題となりました。笠井議員から、規制緩和がすすむエストニアの視察をした際に、無限定な規制緩和が混乱をもたらしている実態をみたとの報告もあり、また、山添議員からは、去年はジャスタビや初乗り距離短縮の問題を追及したが、今後も取り上げていきたいとの話がありました。スペインでのライドシェア反対のタクシーストなど海外の動きも話題になり、ライドシェアを認めず、規制を強化するのが世界の流れになってきているとの点で情報を交換しました。

今後、白タク＝ライドシェア合法化を許さないため、①規制のサンドボックスでの実証実験をさせない、②ジャスタビ、クルーなど白タク行為に適切な規制をさせる、③地方の住民の足を守るためにタクシーの活用と補助金の増額を求めるなどの点で、国会内外で協力・共同をしていくことになりました。

自交総連と懇談する日本共産党笠井議員（左から2人目）、山添議員（3人目）ら＝2018.8.2、自交共済事務所

